

しのはら歴史便り

篠原地区歴史同好会／浜風会会報 No.35

浜風会/入会募集中
毎月第1,3木曜日

令和の浜風会

浜風会は平成元年、わがまち文化誌『浜風と街道』の編集に携わった人達有志が集い、結成した同好会です。時代が令和に変わった機会に、浜風会も発足当時の原点に戻って、新しい方向性を見出したいと思えます。まずは活動の経過を振り返ります。

発足当時の活動から

浜風会は先ず、わがまち文化誌の編集前からお世話になっていた山下孝先生の講座で、歴史の学び方の指導を受ける一方、会員相互が交代で講師となり、発行したばかりの『浜風と街道』を使って、地域を勉強するところから始まった。勉強するにつれ、次々に新たな疑問が出てきて、その一つ一つを掘り起こすことが、活動のテーマになっていった。



浜風会会長 山下勝彦

「郷土資料室」設置が、掘起しの契機に
平成三年十二月、浜松市制80周年記念「三ふるさと創生事業」として、小学校に「ふるさと資料室」を設置した。そこに町民皆様から四百三十点もの生活や仕事の道具、古文書等、貴重な資料を提供した。

だいた。その資料を読み解くことや、前述の数々の疑問を解くため、調査研究等歴史の掘起しを深めていくことが出来た。

そして平成二十二年、その「郷土資料室」は耐震工事のリニューアルを機会に、展示室を整備して「篠原協働センターまつり」の展示品を、毎年ここに移設展示することとした。小学生には地域を学ぶ学習室になっている。

地域を学ぶ資料の整備

以上に並行してわがまち文化誌の編集に参考とした文献等を整備していった。一方その他に、地域の歴史として著しておきたいことを特別企画して作成した。

- ・『篠原村誌』復刻 平成二年
 - ・『私の戦争体験』発行 平成七年
 - ・『ふるさとウォーキングマップ』平成八年
 - ・『篠原村誌続編』発行 平成十三年 等
- 少しずつ地域を勉強する上の資料が整った。

「しのはら歴史便り」の発行

そして平成十四年より浜風会会報としての「しのはら歴史便り」を発行した。会員の日頃の発表成果を要約する形にまとめ、広く地域に配付している。現在まで35号を数え、地域の歴史を後世に残す点で効果的と言える。以上が浜風会活動の経過、要点である。こうして活動の基本の形は出来たとと言える。

令和元年度から新しい「浜風会」に

活動の基本を守りながら、「地域のことを勉強したい」という浜風会発足の原点に戻って、見直します。今年度の会員は26名、内発足当時のからの会員は僅か5名です。入会間もない会員が身近に学べるよう、活動内容を変更していきます。そのポイントは次のとおりです。

- ① 座学中心から、体験見学を折り込む。
- ② その地域のことは、その地域で学ぶ。
- ③ 外部活動グループとの交流を進める。
- ④ 山下孝先生には引き続き、バス旅行も含め、歴史の学び方をご指導いただく。

最近、集会場が各地に出来ています。以前からある「坪井ふれあい会館」の他に、今年は篠原東に「神明会館」が完成しました。本年末には馬郡町にも出来るそうです。そこでその各地の集会所を利用することを計画します。

例えば「坪井ふれあい会館」で行う例会には、坪井町の会員が中心になり、「坪井の宝物？」の現物を見ながら紹介し説明します。

そこには近所の方へも、オープン参加を呼びかけ、多くの人達に、この篠原地区を再認識していただくことを目指します。
(山下勝彦)

第35号、他頁の紹介

- 2頁：} 篠原地区のあゆみ
- 3頁：}
- 4頁：地蔵踏切の地蔵祭り

篠原地区の発展を支えた事柄を中心として

| 和暦 | 産業 | 文化・教育 |
|-------------------------|---|--|
| 大正 15 昭和 1 ~15 | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 13(1938)加藤音吉氏、浜名郡農会会長より玉葱創成に貢献で表彰される  | <ul style="list-style-type: none"> 大正 15(1926)篠原小学校現在地に建つ馬郡分校は統合され廃校  <ul style="list-style-type: none"> 昭和 4(1929) この頃より馬郡養魚場で越冬ツバメが話題に 昭和 12(1937)婦人会発足 |
| 昭和 16 ~20 | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 16(1941)養魚池の水田転換を村民協力して行う | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 19(1944)学徒動員が決定 高等科 2 年男女が近隣工場へ |
| 昭和 21 ~29 | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 21(1946)国方の有志 9 反歩を開田 坪井では養魚場を埋立て開田 昭和 21(1946)前浜で自給製塩が始まる 昭和 23(1948)篠原村農業協同組合が結成 昭和 24(1949)浜名湖養魚漁業組合設立 昭和 28(1953)玉葱の自家採種始まる | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 21(1946)篠原村青年団が新たに発足 昭和 22(1947)篠原中学校開校 校舎は 24 年完成 昭和 27(1952)婦人会戦後再スタート 昭和 29(1954)青年学級発足 |
| 昭和 30 ~39 |  <ul style="list-style-type: none"> 昭和 35(1960)篠原村商工会設立 | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 30(1955)皇太子殿下、養鰻場を行啓 昭和 33(1958)体育振興会発足 昭和 33(1958)第 1 回村民体育大会開催 昭和 33(1958)中学校全日本器楽合奏コンクールで優勝 |
| 昭和 40 ~49 | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 42 (1967) 浜名湖養魚漁業組合理事長 村松啓次郎氏、藍綬褒章を受章 昭和 45(1970)浜名湖の鰻は黄金時代、篠原地区の養鰻池数がピークとなる | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 43(1968)皇太子殿下 服部中村養鰻場、養鰻場を行啓 昭和 46(1971)小学校子供音楽コンクール東日本大会で最優秀校に |
| 昭和 50 ~63 | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 53(1978)坪井町に浜松共同団地設立 昭和 61(1986)馬郡町に浜松湖南工業団地翌年、馬郡工業団地設立 | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 53(1978)篠原公民館篠原役場跡に新設 昭和 59(1984)篠原青少年健全育成会発足 昭和 62(1987)篠原花の会スタート |
| 平成 1 ~31 | <ul style="list-style-type: none"> 平成 4(1992)ビッグ I 篠原店馬郡町に開店 平成 6(1994)遠鉄ストア篠原店篠原東に開店 平成 7(1995)とぴあ浜松農業協同組合発足 平成 21(2009)「浜松市南部地区農地利用調整協議会」発足 / とぴあファー夢発足以降遊休農地解消に効果 平成 26(2014)坪井町発電所竣工売電開始 太陽光発電 5 MW、以降各地に広まる | <ul style="list-style-type: none"> 平成 3(1991) 市制 80 周年事業で「ふるさと資料室」を篠原小学校に開設 平成 4(1992)浜松まつり凧揚げに篠原地区として参加 平成 16(2004)篠原社会福祉協議会発足 平成 20(2008)篠原公民館立替えオープン 現在の篠原協働センター |

篠原地区のあゆみ（昭和～平成にかけて）／

| 和暦 | 地区の主な出来事 | 交通 |
|--------------|---|---|
| 昭和 1 ～15 | | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 7(1992)雄踏橋 140m の木橋、無料に 昭和 15(1940)舞坂駅が舞阪駅に名称変更 |
| 昭和 16 ～20 | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 19-12-7(1944)東南海地震発生 昭和 20(1945)空襲機銃掃射等で被災 | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 16(1941)ガリリ配給停止、木炭自動車走る |
| 昭和 21 ～29 | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 23(1948)夏時刻法施行(サマタイム) 27年廃止 昭和 28-9-26(1953)台風 13号上陸 風雨、高潮により甚大な被害発生 | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 28(1953)東海道本線浜松-名古屋間 電化 |
| 昭和 30 ～39 | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 30(1965)湖東伝染病隔離病舎落成 昭和 31(1966)自治会組織が結成された 行政と地域住民を結ぶ基礎的な組織 昭和 34(1969) 篠原舞阪南部土地改良区設立 一気に篠原の土地地勢を革新した 昭和 36(1961)篠原村は浜松市に合併 浜松市篠原町・坪井町・馬郡町になる | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 35(1960)東海道の舗装が完成 酷道とまで言われた悪路が解消 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 国の事業を効果的推進することに寄与 ① 昭和 36(1961)新国道 1 号線開通 ② 三方原用水 ～国道への取付道路を整備／農地の区画整理 農道、排水路の整備等着々進む </div> |
| 昭和 40 ～49 | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 43(1968)坪井馬郡土地改良区発足 JR 南の坪井馬郡間に富士見通りが開通 昭和 47(1972)三方原用水の農業用水が 通水 | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 42(1967)県道細江舞阪線鉄道高架化 舞阪駅踏切廃止 昭和 44(1969)国道浜松バイパス開通 |
| 昭和 50 ～63 | | <ul style="list-style-type: none"> 昭和 53(1978)浜名バイパス開通 |
| 平成 1 ～31 | <ul style="list-style-type: none"> 平成 19(2007)浜松市政令指定都市へ 西区篠原町／坪井町／馬郡町に 平成 21(2009)浜松市西部清掃工場落成 平成 21(2009)トビオ古橋広之進記念 浜松市総合水泳場落成 平成 26(2014)馬郡町津波避難タワー完成 平成 26(2014)浜松市沿岸防潮堤整備事業 開始→令和元(2019)完了予定で進行中  | <ul style="list-style-type: none"> 平成 15(2003)舞阪駅が橋上駅舎完成 南北通路完成 平成 16(2004)さざんか通りが完成 平成 16(2004)中環状線開通 浜名湖花博開催に合わせ、とびうお大橋も 同時完成し北への道が開かる  |

「令和改元」を機会に、この篠原地区も大きく変革した「昭和」、「平成」の時代を年表風にまとめた。

地蔵踏切の地蔵菩薩供養

お地蔵さんのこと

篠原から志都呂に通じる道（通称志都呂道）の、踏切南側の東に大きなお地蔵さんが鎮座しています。このお地蔵さんは高さが2mもあり台座には「磔死者為追善」と刻まれ、また判読が困難ですが十五人程の関係者が寄付者と思われる名前が刻まれています。

志都呂道は篠原から北に抜ける幹線道で、人や牛馬の往来も多かったようです。明治二十一年東海道線が開通しましたが、踏切の東側は大きくカーブしており、非常に見通しが悪いので人身事故が時々あり、供養のためにこのお地蔵さんが建立されたものと思います。

そしてこのお地蔵さんは、この踏切を利用している多くの人達の安全を見守ってくれています。地元では地蔵菩薩として親しまれ、毎年供養祭が行われています。

供養祭の様子

供養祭は毎年八月二十三日の夕方に行われ、以前は近所の人達数名で準備していましたが、最近では代表と「西茶屋組」の組長・班長が準備していただくようになりました。

この供養祭には篠原地域の主な九寺院（興福寺、長福寺、宝林寺、篠原寺、保泉寺、光雲寺、東光寺、万松院、如意寺）から住職のご参加を

いただき執り行われています。お経は右回りで唱えられ、読経の途中で組の役員を始め一般人達、子供達まで参拝します。読経が終わってから、子供達には楽しみの供物が振る舞われます。



馬頭観音のこと

とここでお地蔵さんの横には「馬頭観音菩薩」の石柱があり、「昭和六年建」と刻まれました。この前に頭部が欠損した石仏が一体あります。昭和十五年頃には馬頭観音が安置されていた



が、昭和十九年の東南海地震で壊れたのかも知れません。この踏切での牛馬の事故の供養のために祀ったとも想像されます。一度参拝に訪れてみて下さい。

(鈴木照義)

浜風会会報第35号
篠原協働の会「浜風会」
(篠原地区郷土の歴史を学ぶ会)
編集委員 委員長 山下勝彦
鈴木忠 鈴木理市
藤田博辞 山中道弘
発行責任者 山下勝彦
発行 令和元年7月1日